



青森市子育て

サポートセンター



H25. 7. 12 発行 Vol.1

私たち家庭教育サポーター連絡会は、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託し、「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい!」という熱い思いで、活動に取り組んでいます。

7/2

きらきら塾「現代の子どもたちをとりまく携帯の実態」 講師:NTTドコモ & 青森県警



NTTドコモ
手代木ひろみさん

- 知っていましたか!?**
- ★GPS付のカメラで撮った画像はその場所まで特定できるデータが入っています。
⇒**ネット上に投稿するのは危険!!**
 - ★友達になりすましたメール、チェーンメールなどのURLをクリックすると不当な請求や詐欺にあうかもしれません。
⇒**身に覚えのない怪しいメールはすぐに削除!!**
 - ★無料通話アプリの友達機能の部分をONにすると、自分の電話帳のデータが運営会社に「自動収集」されてしまいます。⇒**機能をOFFに!!**



青森県警察本部
工藤靖之さん

サポちゃん日記



うさいけび
近くにはほしい?

パソコンや携帯、ゲーム機器を使いこなす子どもたち。私たち大人は、それらの機能をどれくらい把握できているでしょうか?
お二人から、子どもたちのトラブルの実例をもとに、それらの危険性と対策を話して頂きました。パソコンや携帯の使い方によっては、トラブルの被害者にも、加害者にもなりうる!アプリなどネットの現状を、大人が把握しないと危険!子どもには、ゲームからネットに繋がり、被害に合うことや、コミュニケーションサイトの危険性を伝えることが必要と話されました。

そして**大人ができる対策は**

- ① 使う際のルールを決める
- ② フィルタリングで有害なサイトへのアクセスを制限する
- ③ 子どもが使っているアプリをチェックする

大切なことは、大人がきちんと対策をとって、子どもが安全に使うことができるように管理し、子どもが困った時に、大人にいつでも相談できる環境を作っておくことである!でした。

大人でも対応ができない困った時は、青森県警察本部生活安全全部保安課に気軽に相談してくださいとのことでした。

～参加者の感想の一部をご紹介します～

- ◎いろいろな機能がありすぎ、理解しきれないというのが正直な印象。上手に使うのが難しいと感じた。親がスマホの練習をしなければ。
- ◎携帯やスマホは便利だが、注意することや知っておく大事な点があり、安易に子どもに渡してはいけないと思った。
- ◎ラインやゲーム機も危ないということ、出会い系よりもコミュニティーサイトが危険であるとわかり怖くなりました。
- ◎相談できる環境作りが自分の家庭でできているか、見直してみます。



次回予告

サポーター連絡会 自主事業	うとう塾
日時:8月10日(土) 13:30~15:00	日時:9月3日(火) 10:00~12:00
会場:橋本小学校 体育館	会場:中央市民センター
テーマ:「あそびフェスタ! みんなで一緒に懐かしいあそびを楽しもう! 内容:ゴム段・ボールつきの伝承遊びの体験 対象:小学校低学年(保護者参加可) 講師:山形亜紀子さん (健康運動指導士・スポーツプログラマー)	テーマ:「親ができることってなあに? ～思春期・あと・さき～」 内容:特別支援学校の特色を知り、進路や将来を考えるきっかけ作りとする 対象:発達に心配のある4歳~中学生の保護者 講師:指導主事 小沼順子さん (青森県総合学校教育センター 特別支援教育課)

鳴海先生の子育てQ&A



児童心理治療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海明敏さん

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動もされる鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に寄り添ってくださいます。

Q 小学2年生の女の子ですが、学校で仲間はずれにされているようで、朝になると学校に行きたくないと言います。

仲間はずれにしているお友達の名前は分かるのですが、私から直接その子の親にお話してよいか迷っています。



A 「困ったことがあったらお母さんに任せなさい。お母さんの言う通りにしていれば、絶対に間違いないから・」と、お子さんを助けなければと思うお母さんは涙山おられると思います。お子さんが乳幼児の頃には、このような頼もしい親の姿勢はとても大切なことで、これなくしてはお母さんが育たなかったのだと思います。

でも、親子の関係は少しずつ変化し、やがて子どもは親離れして自分の力で人生を切り開いていかなければならないものです。学校へ行きたくないということに対して、ただちにその原因を探し出して、解決してあげるといった方法も間違いではありません。

しかし、親離れが、少しずつ進んでいくものだという視点に立つと、まず第一にしなければならぬことは、我が子の親離れがどの程度進んでいるのかを見極めることです。自立に向かっての第一歩を踏み出せるところまで成長しているのか、それとも、まだ母が手を引いてやらなければ歩けないような状態なのか、そこをこのところの見極めです。

つまり、お子さんは自分なりになんとか努力して現在の困難を克服しようとしているのか、どうにも出来ないからお母さんに助けて欲しいと思っているのか、ここをしっかりと見極めることがポイントになります。

お子さんの身体に優しく手を触れながら、「そう学校に行きたくないのね・それで・お母さんにどうして欲しいとあなたは思っているの・」と声をかけてみましょう。どんな反応がお子さんから返ってくるでしょうか。返ってきたお子さんの反応で、次にお母さんがすることがはつきりするでしょう。お子さんの反応をゆくり待っているお母さんの優しいまなざしの中で、お子さんは自分の力を確かめ、成長していくのだと思います。

5/22

うとう塾『発達障害ってなあに?～気になる子への対応～』

講師：青森県発達障害者支援センター
「ステップ」

発達障害サポートコーチ 町田徳子さん



講師の町田さんは、優しく穏やかな声で発達障害の事から説明してくださいました。発達障害は、生まれながらに脳の働きに違いがある為に、感覚や脳の情報処理に違いをもつものです。家庭や育て方の問題ではないのですが、誤解され易いようです。障害にも広汎性発達障害・ADHD・LDというようにいろいろな種類やそれぞれの特性があり、それは視力の悪い人が近視や乱視を併せ持ち、自身自身の眼鏡が必要なように、ひとりひとりで特性も違う為にオーダーメイドの支援が必要な事、眼鏡をかけるようにぴったり合う支援を得られれば、ずいぶん生活しやすくなることを知りました。

次に、「それぞれの時期に必要な子供への関わり方」にお話が進むと、幼児期・小学生・中学生に分け、丁寧に話してくださいました。どの時期でも「自己肯定感を育む」ことが一番大切で、小学生では「ほっといてもできるようなにはならない」、中学生では「急に手を離さない」という

《講座内容》発達に心配のある子ども達の様々な課題を解決するために、まず障害を理解する。二次障害をおこさないために何が必要なかを学び、それぞれの時期に必要な子供への関わり方や考え方を知る機会とする。

考えかたのヒントを知り、私は自分の子に対して「いつかできるだろう」と思い、教えていなかった自分に気づかされました。そして、やはり大切なのは「自己肯定感!!」を育むことだということでした。

その後も、二次障害やきょうだいへの心配りなど丁寧な説明を聞いた講座でした。二次障害とは、発達障害のある子どもが、元々の特性とは別に新たな障害を合併してしまうことです。きょうだいへの気配りとは、「きょうだい児もその子自身の人生の主役」ということを忘れないようにすることです。

最後に、参加者の皆さんから多くの質問をいただき、答えていただきました。「本来はご本人に会ったこともなく、質問内容に回答するのは難しく、参考までにお聞きください」とのことでしたが、とても丁寧な答えで、学びの多い講座でした。

《うとう塾》とは発達に心配のあるお子さん（発達のかたよりや遅れ、知的障害に心配のある4歳～中学生）の保護者の方や関心のある方を対象

とし情報の提供やサポートへの繋がりづくり、仲間づくりの場を提供することで、参加される方が一歩踏み出す機会となることを目指し開催している講座です。



青森市家庭教育サポーター連絡会



TEL・FAX 017-774-6534 〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F

Eメール aomorishi-saposen@silver.ocn.ne.jp ブログ <http://aomorisi-saposen.blog.ocn.ne.jp/>

【開設日時】 毎週火曜日 10:00～13:00

